

表 平成27年度(平成28年産)麦類作況試験生育ステージ

品種	幼穂形成始期 (幼穂長1mm)		茎立期 (主稈長2cm)		減数分裂期 (幼穂長3cm)		出穂期 (出穂40～50%)		予想される成熟期				
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年の予測期		平年		
	(月/日)	(月/日)	(月/日)	(月/日)	(月/日)	(月/日)	(月/日)	(月/日)	(月/日)	(月/日)	(月/日)		
六条大麦	シュンライ	1/27	2/3	3/22	4/4	4/17	4/25	4/21	5/2	5/31	～	6/5	6/13
	ミノリムギ	2/4	2/15	3/26	4/6	4/17	4/27	4/23	5/6	6/2	～	6/7	6/15
小麦	あおばの恋	12/26	2/22	3/7	3/30	4/13	4/27	4/23	5/7	6/7	～	6/12	6/26
	シラネコムギ	3/6	3/16	3/29	4/12	4/19	5/1	5/3	5/11	6/17	～	6/22	6/29
	ゆきちから	3/8	3/21	4/4	4/16	4/21	5/1	5/4	5/12	6/18	～	6/23	6/29

注1) 平年値は過去5か年の平均値(平成25年度を除く)。あおばの恋は平成22年度から供試のため4か年の平均値。

注2) 播種期は10月20日。

注3) 成熟期の「本年の予測期」は、登熟期間を 大麦:出穂後40～45日，小麦:出穂後45～50日 として算出した。

〔作況試験生育概況〕

出芽までの期間は乾燥傾向で、大麦・小麦ともに出芽期は平年より3日遅かったが、出芽揃いは良好であった。

出芽以降、高温傾向で日照、降水量ともに平年並から平年より多く推移したため、生育は順調で12月15日時点で越冬前の目標生育量に達した。

その後も周期的な降雨または降雪はあったが高温傾向で積雪は少なく、1月15日時点で平年の2月10日時点の生育量となり、あおばの恋では12月中に幼穂形成始期に達したと推測された。他の大麦・小麦の生育も平年より早く、大麦は1月下旬～2月上旬に、他の小麦も3月上旬に幼穂形成始期に達した。3月以降も高温傾向が継続し、大麦・小麦ともに茎立期及び減数分裂期等の生育ステージは平年に比べて早く経過した。

出穂期は平年に対し、シュンライが－11日、ミノリムギが－13日、あおばの恋が－14日、シラネコムギが－8日、ゆきちからが－7日といずれも平年より早かった。

出穂期以降も気温が平年より高く推移し、今後の気温も平年より高いと見込まれることから、予想される成熟期は平年より早い見込みである。